

匝瑳市行政改革推進委員会 会議録

日 時	令和6年2月5日（月） 午後1時30分～午後2時51分
場 所	匝瑳市役所議会棟第3委員会室
出席者	委 員：伊野貴代司委員、平山新治委員、田邊久利委員、須合重徳委員、 加藤太委員、湯浅太郎委員 市 長：宮内康幸市長 （事務局）総務課 布施昌英課長、増形武志副主幹、富井将光主査 久保田潤主任主事 財政課 黒須弘樹主査
市長 あいさつ	市長あいさつ
議 事 （要 旨）	議題 （1） 匝瑳市行政改革推進委員会委員長及び副委員長の選任について （2） 第4次匝瑳市行政改革大綱（令和4年度）の取組結果について （3） 第5次匝瑳市行政改革大綱（案）について （4） その他 結果 ① 委員長に平山新治委員、副委員長に加藤太委員が選任された。 ② 第5次匝瑳市行政改革大綱（案）について、原案のとおり、決定された。
	会議録 （1） 匝瑳市行政改革推進委員会委員長及び副委員長の選任について 委員の互選により、委員長に平山新治委員、副委員長に加藤太委員が選任された。 （2） 第4次匝瑳市行政改革大綱（令和4年度）の取組結果について 第4次匝瑳市行政改革大綱（令和4年度）の取組結果について、事務局から説明を行った。 <主な質疑及び意見> 委員A 令和4年度実施項目等一覧の中で、実績額が「0」とあって、実施状況が「×」と「○」の記載があるが違いは何か。 事務局 実施状況が「×」は、令和4年度に実施できなかったものであるもので、実績額は「0」となっている。実施状況が「○」で実績額が「0」のものにつ

いては、取組は実施しているので、実施状況は「○」としているが、取組の実施による効果額は「0」であるため、実績額が「0」という記載である。

委員A

結果が「0」なのに、実施状況が「○」というのは、評価はできないのではないか。取組をしている各課は、取組に対してPDCAを実施しているのか。実施できた、できなかった理由が明確になっているか。

事務局

実施項目の取組については、各年度終了後に、各課に取組状況を報告してもらっている。その中で、実施していない取組については、次年度以降取り組むよう周知をしている。

委員A

実施項目等一覧について、委員が評価をするにあたって、次年度以降、実施状況の「○」「×」だけでなく、取り組んだ内容がわかるものがあるとよい。

事務局

今後の参考とさせていただく。

委員B

先ほどの意見について、「○」の場合は、実施内容を箇条書き程度で記載をお願いしたい。また、取り組んだが効果額として出なかったものは、取り組んだ内容を記載したもので、次回から資料作成をお願いしたい。

事務局

取組内容の内訳について記載したものを、後日委員へ送付する。

(3) 第5次匝瑳市行政改革大綱(案)について

第5次匝瑳市行政改革大綱(案)について、事務局(総務課)から説明を行った。

<主な質疑及び意見>

委員A

資料1にある修正のメンタルヘルスの件は、非常に良いと思う。体と心の健康管理ができていないと、せっかくの人材が有効活用できないので、こういうところが重要である。また、資料2の参考意見についても、良い意見が出ていると思う。

今後はできる限りの絞って実施していくことが重要であると考えている。今後も事業の継続性が大事であり、歳出の削減や歳入の増加などを掲げているが、歳出や歳入の施策の中で、金額的に一番インパクトがあるものは、どのようなものか。例えば、各施策の中で税金の回収などがあると思うがその辺を伺いたい。

事務局

歳入の中では、滞納整理等を含めた市税の確保がメインになる。そのほか税外収入の確保ということで、公共施設のネーミングライツやふるさと納税の充実に取り組んでいくなどである。

委員A

歳入を増やすという意味では、ふるさと納税は即効性が高いことと、逆を言えばダメージを受けやすい。実施している自治体としていない自治体では雲泥の差が生まれている。令和4年度の実績を見ると、金額的に効果はあったものの、積極的に実施している自治体から見れば非常に低い金額であるので、こういったところの推進を図るべきである。ふるさと納税の中身は、今は「もの」より「こと」の方が非常に受けやすいところがあるので、もう少し突っ込んだ形にすることと、どうしても行政が手を出せる範囲があるかと思うが、事業者などのイベントの「こと」に絡めると良いと思う。

外国人に向けたアピールも重要かと思う。今は円安が続いていて安いと思ってかなりの金額を落としてくれる。今まで実施していない「こと」の取組が一つ即効性もあり、非常に金額が増えやすいと思うので、知恵を絞ることで良いと思う。

次に、クラウドファンディングの項目で、昨年度の実績額は、「0」とあるが、実施したのか伺う。

事務局

ふるさと納税については、担当の企画課で金額を増やすために取組を実施している。来年度に向けては、市としてアピールしたい植木を返礼品として入れてみたらどうかなど、検討している。ふるさと納税を増やすための一つとして、まず匝瑳市を知ってもらうことが大きいと考えているので、そういったことも含め、担当課で検討している。

クラウドファンディングについては、今までの実績は、パークゴルフ場を整備する時に実施しているが、それほど大きな金額は集まらなかった。来年度の事業として、飯高寺（飯高檀林）の防火施設の改修を国の補助を受けて予定している。事業主体は、飯高寺で、市からも補助を予定しているので、そういった部分でクラウドファンディングを考えている。寄付して頂いた方への返礼品については、実際に飯高寺に来ていただいて、飯高寺の歴史を説明するなど、先ほどの意見にもあった「もの」だけではなく、匝瑳市に来ていただく「こと」についても検討している。

委員A

クラウドファンディングのシステムは、お金を集めるには、非常に手っ取り早い。今の話では、今までの施策の延長でしかないので、もっと大胆に考えても良いと思う。例えば、昨今では、報道でもあった国立科学博物館のクラウドファンディングがあり、9、10億円が集まった。つまりそういうものに賛同する方が多くいた。文化財はもちろんだが、まったく考え方を変えて、今後、金額が嵩む普通事業建設費用について、大物の公共施設の建物で、全てに対応できるものではないが、市民病院の移転が現実的になるのであれば、病院は地域の皆さんが望んでいるものであるもので、地元愛を打ち出して、病院を建て替えるにあたって、皆さんに便利に使っていただくためのクラウドファンディングを実施する。それだけだと弱いので、良い案かは別として、寄附を頂いた方には、例えば今後のことを考えて、コロナワクチンやインフ

ルエンザワクチンを無料で受けれることを、返礼品として返すなどして募るのも案の一つである。

そのほかも、積極的に実施している金融機関もあるので、民間の力を借りるべきである。C委員の意見はどうか。

委員C

クラウドファンディングは、色々な市町村と連携して実施しているので、声をかけて頂ければ、民間のノウハウを活かして、匝瑳市だけでなく、市内の優良企業と連携しながら、実施したいと思っている。

もう一つの観点から、匝瑳市の魅力は、植木をはじめたくさんあると思う。環境の面では、中々実現するのは難しいのかもしれないが、銚子連絡道路が八日市場インターチェンジまで延伸になり、そこに企業の集積を狙っているということであれば、そこに力を入れていただければ良いと思う。

委員A

考え方の一つであるが、農産物にも影響してくると思う。今までどおりのやり方の延長では、超えることは難しいと思うので、振り切った施策、一段上のものを出すのが良いと思う。

次に、事業継続性から懸念されることがある。3役の給与削減については、ずっとはできないと思う。なぜなら、物価は上がっている、議員になる人がいない、自治体の友人知人から聞いても公務員の志望が少ないなど、いずれ職員不足になることが目に見えている。給与を削る方法は、民間では、少なくとも反しているの、どこかで限界が来ると思う。

もう一つは、これから次を継ぐ世代が、市長やっても教育長やってもお金にならないという言い方はしないと思うが、それであれば、儲かる企業の方が良いということになってしまうので、この辺は最低限の限度を決める必要があると思う。たしかに金額的には削減ということでは出るが限界があるのでずっと続けられるものではないと思う。

職員の給与については、勧告によるものであるの、下げるカットというのはないと思うが、いずれにせよ、人にお金を割かないというのは、これからはばらばらの経済状況の中では難しいと思う。職員のやる気も先ほどのメンタルヘルスもそうだが、人への投資を考えていかないと仕事が回らなくなるのが目に見えている。職員がいなくなる、離脱してしまうのは、本市だけでなく周りにもたくさんある。その結果、都度仕事が偏って、ほかの人の残業が増える。コロナの時は、職員は大変だったと思う。人の人力、コントロールは大切である。ほかにも民間の職員を増やしていいのか、世の中の流れで正社員化を厚労省から勧められるのに、任期付きの採用で良いのかなど、色々あると思うが、今までと違って、人にコストをかけるのは大切なことになっているので、削る限界を考えておかないと、結果的に人がいなくなる。

事業継続という観点から、市長、副市長、教育長を下げればよいということではない。行政では難しいと思うが早い段階で外国人の登用も積極的に進めるのもあると思う。人に関しては、コストのかけ方を考えた方が良いと思う。

大綱の項目にもあるが、人件費を削減すればよいということではなく、物価が上がっている以上限界があるし、マンパワーにも限界がある。残業についても行政でやらなければならないこともあるが、一般の市民の皆さんの思っている以上に職員が大変なのは、中々伝わらない。今後検討された方がよいと思う。

事務局

今後、担当課の取組を進めるにあたり、参考意見として検討させていただく。

委員C

昨年、匠瑤市が脱炭素先行地域に選考されたが、その点はこの大綱に盛り込まれているのか。

事務局

脱炭素に関する取組は入っていない。

事務局

脱炭素の事業については、令和6年度の当初予算編成の中で、事業担当課と調整を進めていたが、国庫補助金を受けるためには、具体的な個別計画の承認を受けてからでないと事業が進まないということであったため、具体的な事業ということでは、今回は掲載できなかった。

委員C

来年度以降は載るのか。

事務局

この大綱は、令和6年度から令和9年度までの大綱となるので、今回は載せられない。次回の大綱策定時に脱炭素の取組を反映させていくことになる。

委員C

32ページのDXの推進について、匠瑤市のキャッシュレスの取組は、他の市町村と比べると、出遅れていると思う。この部分については、金融機関の方で役に立てると思う。ひいては業務の効率化や職員の時間外の削減、まさに支出の削減につながると思う。取り組んでいるのであればそれをしっかり進めてもらいたいと思うが、具体的な取組はあるか。

事務局

匠瑤市のキャッシュレスの取組については、現状は、カードでの支払いはあるが、税であるとQRコード決済は今年度から実施している。制度改正により来年度から色々な項目ができるようになるので、今後、金融機関と相談させてもらいたい。

委員B

先ほどのクラウドファンディングの中で、病院のところであるが、人間ドックの利用など、光るものがないと飛びつかない。匠瑤市でできる、他にはないものをうまく絡ませたものを返礼品に含めるなどしていったら良いと思う。

次に、定員適正化の関係で、第1次、第2次では、職員を減らしてきてい

と思うが、現在は、職員は減ってきている中で、過去から見ると、事務量や処理量は増える方向でしかなく、減っているとは思えない。職員は減っているのに、1人あたりの業務量は増えている中で、現在、療養休暇で何人休んでいて、そのうちメンタルで休んでいる人数を答えられればお願いしたい。

事務局

資料を持ち合わせていないので人数は答えられないが、メンタルで休んでいる職員はいる。

委員B

職員のミスがあった時にホームページに載せていると思うが、仕事を進める上で、支障はでていないか。

事務局

確かに、業務量は増えている。職員数についても、定員適正化計画の中で定めた人数の確保を目指しているが、先ほどの委員の意見にもあったが、療養休暇や報道にもあるように公務員離れがある。また、職種によっては、募集をしても、応募がなかったり、辞退などにより、募集した人数に満たなかったりする場合もある。実際業務を進めるにあたっては、会計年度任用職員で補っている状況である。

委員B

55ページの定員適正化計画について、この計画は、令和6年度に策定して、令和7年度から実施とあるが、この中で取り組んでいくことでよいか。

事務局

令和6年4月1日現在の人数をベースに、今後4年間の業務量などから必要な人数を積算し、策定する。その中で確保に取り組んでいく。

委員A

匠瑳市は一次産業に力を入れていると思うが、現在の農業振興の状況について、人手はどうなのか、売れ行きはどうなのか、D委員に伺いたい。

委員D

売れ行きというのは何か。

委員A

一般的なものでお願いしたい。

工業団地の中に1社、野菜のカットなどの企業が2年前に入ってきている。前回、市のイベントの農業まつりに初めて参加させていただいた。工業団地には色々な業種が入っているが、初めての業種であった。工業だけよくてもダメで、全般な産業が良くなならないとこの行革は進まないと思うので、農業のやり方でも何か協力できることがあれば良いと考えている。

委員D

カット野菜の企業が工業団地に入っていることは知らなかった。農業としては、人手が無くて、外国人を使っている状況である。

委員A

例えば、市からの補助などの中で、色々なやり方で、DXとかAIとか使

えなくはない。人手を0.5人分そういうものを利用するだけで、農業の効率を凶れたりする。いずれ稲作は自動化できると個人的には思っている。実際に農薬散布は実施している。農家の規模もあるので、中々難しいところもあるが、それを市の方から、お金を出すだけではなくて、やり方が重要であるので、今の方法でもっとできることがあるのかなと思う。例えば補助金を絡めて、先進技術を使うことはありだと思う。農機具には、お金がかかるのは知っているので、個人で持つのは難しいと思うので、そういったところの仕組みを手助けする。お金だけではなく、仕組みを提供するやり方もあるのではないかと思う。

委員A

行革を実施しなければ、どうなるかという、極端なこと言えば、ゴミの回収がされなくなる、水道料金が10倍くらいになるなどが起きる。過去にそういう町が北海道にあった。今、行革を実施しなければかなり人も減るし、そもそもここに住んでもらえなくなるなど、市民生活に影響がでる。どうしても人が少ない中で実施するのであれば、民間の力をもっと活用すべきである。

委員長

大綱(案)の内容の修正はないようなので、原案のとおり決定してよろしいか。

〈委員の賛同あり〉

委員長

全員一致で決定されました。

(4) その他

委員B

今、職員にだいぶ負担がかかっていると思う。そのところで、行政改革大綱は逆行している部分がポイントとしてあると思う。その中で職員から改善提案ができる環境があると良い。そういう環境があれば少なからず職員のやる気や活性化につながると思うので、意見として頭の中に入れておいてもらいたい。

事務局

事務局から今後のスケジュールについて説明があった。

- 2月15日開催の行政改革推進本部で大綱を決定
- 匝瑳市議会3月定例会に議会資料として提出し報告
- 市ホームページ及び広報そうさにより公表